

**【事務事業調査】**

事務事業名	高根沢湧泉太鼓補助			予算科目	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
				コード	001-10-04-01-0002-01-01-0
担当部課	教育部 生涯学習課	担当	文化・公民館係	事業の分類	既存事業
		係長	鈴木陸夫		

**■事務事業の概要**

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	<p>H23 事後評価</p> <p>○町のイメージアップを図り、伝統芸能として伝承し町民の芸術、文化意識を高めるために活動をしました。○町の行事や他市町の太鼓愛好会等が主催する演奏会等に招かれ演奏活動を行いました。○普及活動として、小学生に太鼓教室を開催して伝統芸能を体験していただきました。これらの活動を財政的に支援しました。</p> <p>H25 事前評価</p> <p>○町の呼びかけで結成された和太鼓の団体。総事業費年約42万円、年会費1人6千円をもって活動している。○町のイメージアップを図り、伝統芸能として伝承し町民の芸術、文化意識を高めるために活動をしている。○活動は主に町の行事や他市町の太鼓愛好会等が主催する演奏会等に招かれ演奏活動を展開している。○普及活動として、中央小学校の生徒に太鼓教室を開催している。</p>	<p>○高根沢町のイメージアップが図れます。○本町の伝統文化として、伝承、発展させ、町民の芸術、文化意識を高め、他地域との交流を深めることとなります。○太鼓の普及活動を活発に行うことで、伝統芸能の指導体制の強化につながります。</p>
実績		

**■活動指標**

指標	目標値	達成値	特記事項
太鼓教室の開催回数	28回		太鼓教室(後継者育成) 28回 中央小児童の和太鼓指導 12回 各種イベント参加 他団体との交流会・発表会 会員研修

**■事業費(計画)**

【単位:千円】

細 節	金 額	積算根拠
1 補助金	300	H24年度と同額要求
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
	300	

**■事業費(実績)**

【単位:千円】

細 節	金 額	特記事項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
	0	

**■事業経費**

		計 画 【千円】	実 績 【千円】	特記事項
予 算	当初予算額	300		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決 算	決算額			
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0		
	差引(一般財源)	300		

■補助金等名:高根沢湧泉太鼓補助金

■補助事業者等:高根沢湧泉太鼓の会

★自己評価基準

- (1)とてもよくあてはまる:5点
- (2)あてはまる:4点
- (3)どちらかというあてはまる:3点
- (4)どちらかというあてはまらない:1点
- (5)あてはまらない:0点

★総合評価基準

- (1)継続:総得点が35点以上
- (2)見直し:総得点が35点未満

補助金等交付基準		自己評価	評価に関するコメント	
1	公益性	■受益が不特定多数の町民に広く及ぶものであり、特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でない。	5	平成8年度町の呼びかけで結成。元気あっぷむらで温泉が湧出したことにより、湧泉太鼓と名づけられた。特に町の行事等で演奏しており、現在、中央小学校の子供たちを対象に太鼓教室を開催するとともに一般町民を対象に打ち手の教室を開講している。
		■町全体に波及効果が期待できる。	4	
2	必要性	■地域経営計画に即し政策的に奨励する事業であり、町民のニーズに即している。	4	湧泉太鼓は高根沢町の伝統芸能として、保存・伝承していくよう創設された。他市町や町行事での演奏などを含め、本町のイメージアップに貢献しており、今後も町の和太鼓として、後継者の問題とともに保存・発展させるべきだと思います。
		■社会動向を展望し、先見性・発展性がある。	3	
3	公平性	■民間、NPO、ボランティア等、既存団体等の活動を阻害しない。	5	既存団体等の活動を阻害しない。
		■町民のサービス受益機会が均等である。	4	
4	効果性	■事業効果が明確かつ具体的である。	4	補助要件に明記。実績報告書においても、領収書の写しを添付する。
		■予算の見積が適正である。	3	
5	適格性	■実施体制が明確である。	5	団体の自立は、進んでいない。これは町備品の和太鼓という特殊な楽器を使用していることが一因となっている。現在は後継者の育成に力をいれている。
		■自主・自立の傾向が明白で、将来計画がある。	3	
合計点数		40		
総合評価		継続		